

**EAST SERIES ROUND 5** 9月17日  
富士スピードウェイ ▶くもり/ドライ ▶15周

Pos.	Car No.	Class	Driver	Machine	Type	Time / Gap
1	11		大湯都史樹	TANZEN Rn-s ミスト	KK-ZS	25'55"830
2	10		加藤 智	FEEL-RK01-TODA	RK-01	+16"782
3	14		金澤力也	VSRランボルギーニ F108	F108	+20"872
4	72		金井亮忠	チームNATS-正義 001	NATS-001	+22"980
5	29	H1	八巻 渉	モレキュールアキランドイグル	WEST006	+31"141
6	73	H2	里見乃亜	チームNATS-エクシズ006	WEST006	+33"053
7	77	H3	木村 順	アルボルアルデアCMS	WEST006	+51"119
8	19	H4	ハンマー伊澤	Sウインズ☆ハンマーバリュー	WEST056	+54"929
9	3		今中大介	B-MAX-RK01-TODA	RK-01	+1'04"428
10	21	H5	相馬智宏	東京工科大学自動車学校	WEST006	+1'08"082
11	22	H6	池島実紅	東京工科大学自動車学校ウイメンズ	WEST006	+1'15"990
12	27		SYUJI	B-MAX-RK01-TODA	RK-01	+1'18"574
13	17		小倉可光	チームNATS-OAC 090	MC090	+1'22"754
14	38	H7	伊藤文和	Technical茶畑ED	WEST006	-1Lap



東日本シリーズは全6戦が終了。大湯(写真上・中央)が全戦優勝でJAF地方選手権シリーズチャンピオンに。2位には、今回取り上げたNATSモータースポーツ科の科長でありドライバーの金井(写真右)、3位もNATSが車両メンテナンスを行なう里見が入った。

**EAST SERIES ROUND 6** 9月18日  
富士スピードウェイ ▶雨/ウエット ▶15周

Pos.	Car No.	Class	Driver	Machine	Type	Time / Gap
1	11		大湯都史樹	TANZEN Rn-s ミスト	KK-ZS	33'15"579
2	72		金井亮忠	チームNATS-正義 001	NATS-001	+8"473
3	73	H1	里見乃亜	チームNATS-エクシズ006	WEST006	+31"473
4	77	H2	木村 順	アルボルアルデアCMS	WEST006	+48"599
5	21	H3	相馬智宏	東京工科大学自動車学校	WEST006	+58"835
6	3		今中大介	B-MAX-RK01-TODA	RK-01	+1'16"796
7	22	H4	池島実紅	東京工科大学自動車学校ウイメンズ	WEST006	+1'17"705
8	19	H5	ハンマー伊澤	Sウインズ☆ハンマーバリュー	WEST056	+1'18"646
9	17		小倉可光	チームNATS-OAC 090	MC090	+1'38"518
27			SYUJI	B-MAX-RK01-TODA	RK-01	-5Laps
29	H		八巻 渉	モレキュールアキランドイグル	WEST006	-6Laps
14			金澤力也	VSRランボルギーニ F108	F108	-11Laps
10			加藤 智	FEEL-RK01-TODA	RK-01	-11Laps
38	H		伊藤文和	Technical茶畑ED	WEST006	未出走



NATSは二級整備士資格を持つ学生がレースに参戦する。学生自身がパーツ製造・加工を行ない、車体の後部は「基本オリジナルで他のUOVA車と同じ部品はない」と言う(写真左)。東京工科大学は2年生の選択制で、パーツ加工などは卒業生の手を借りているが、アライメントの調整は学生が行なう(写真右)。

**WEST SERIES ROUND 4** 7月30日  
岡山国際 ▶晴れ/ドライ ▶15周

Pos.	Car No.	Class	Driver	Machine	Type	Time / Gap
1	5		小高一斗	MARUSAN☆ヤマト	KK-ZS	23'23"473
2	3		澤田真治	B-MAX-RK01-TODA	RK-01	+5"135
3	72		金井亮忠	チームNATS-正義 001	NATS-001	+13"617
4	27	H1	八巻 渉	モレキュールアキランドイグル	WEST006	+23"509
5	77		久保宣夫	オートセレクトジャパン"MYST"制動屋	KK-ZS	+24"226
6	6		鶴田和弥	Rn-sports F108	F108	+28"591
7	7	H2	山岸洋之	イーグルスポーツ☆MTN☆056	WEST056	+56"117
8	95	H3	佐藤健介	KRS赤レンジャー-ANDARE-976	WEST976	+56"136
9	70		岡本武之	ビスキュープレージングMC090レブリ	MC090	+1'27"322
10	46	H4	入榮秀謙	薬のことなつタ薬局☆MTN☆アボロ電工	WEST056	+1'27"807
73	H		里見乃亜	チームNATS-エクシズ006	WEST006	-4Laps
51	H		藤井敬士	フジタ薬局 モーターテクニカ FRD	FRD956	-7Laps
11			大湯都史樹	TANZEN Rn-s JSS MYST	KK-ZS	-13Laps

**WEST SERIES ROUND 5** 7月31日  
岡山国際 ▶晴れ/ドライ ▶15周

Pos.	Car No.	Class	Driver	Machine	Type	Time / Gap
1	5		小高一斗	MARUSAN☆ヤマト	KK-ZS	26'05"07
2	11		大湯都史樹	TANZEN Rn-s JSS MYST	KK-ZS	+1"935
3	72		金井亮忠	チームNATS-正義 001	NATS-001	+11"041
4	77		久保宣夫	オートセレクトジャパン"MYST"制動屋	KK-ZS	+22"584
5	6		鶴田和弥	Rn-sports F108	F108	+23"598
6	73	H1	里見乃亜	チームNATS-エクシズ006	WEST006	+30"969
7	51	H2	藤井敬士	フジタ薬局 モーターテクニカ FRD	FRD956	+33"771
8	95	H3	佐藤健介	KRS赤レンジャー-ANDARE-976	WEST976	+49"928
9	46	H4	入榮秀謙	薬のことなつタ薬局☆MTN☆アボロ電工	WEST056	+1'20"820
10	70		岡本武之	ビスキュープレージングMC090レブリ	MC090	+1'21"333
11	3		澤田真治	B-MAX-RK01-TODA	RK-01	+1'29"623
12	7	H5	山岸洋之	イーグルスポーツ☆MTN☆056	WEST056	-1Lap
27	H		八巻 渉	モレキュールアキランドイグル	WEST006	-15Laps

とレースに出られなくなってしまう。けれどもJAF・F4ならば自分たちの創意工夫で埋め合わせることができ、そうしたオリジナルパーツでもそれなりの結果を出すことができるんです。実際、昨年富士スピードウェイで開催された東日本シリーズ第5戦において、NATSは優勝を飾っている。

一時期JAF・F4においても、高コスト化が進み問題になったこともあった。しかし現在は、関係者の努力と車両規則の整備により、創意工夫の余地を残しながらコストの抑制に成功。当然資金が必要になるが、アイデア次第でマシン性能を高められるカテゴリへと変貌を遂げている。自動車専門学校の着目したのがこの点なのだ。

東京工科大学自動車学校エンジンメンテナンスコの橋本秀哉科長は言う。

「学校では教材車の分解組み立ての域を出られませんので、学ぶ意欲にも限界があると思います。けれども実戦に関われば、走る・曲がる・止まるという自動車動作の基本をより深く学べます。また、JAF・F4は他のワンメイックカテゴリと違って、ある程度独自の工夫を盛り込めるので、学生の発想を形にすることができます。レース現場ではプロにかまされて作業しますが、何より自分たちが施した整備の結果が、順位というカタチで目の前にすぐに見えるので、学校ではできない経験を積むことができます。モータースポーツの実戦現場とは、学生が1日ごとに成長できる場なんです」

両校がJAF・F4の現場でどのような活動・メンテナンスを展開しているのか、その様子は次回レポートする。



# 2016 FORMULA 4 CHAMPIONSHIP Paddock NEWS Vol.3

国内唯一、開発競争のあるミドルフォーミュラF4の魅力を探る



NATS日本自動車大学校



東京工科大学自動車学校

## 前編 JAF-F4への参戦意義

# 実戦教育の場としてJAF-F4で戦う二校の取り組み 資金力はアイデアでカバー

今年、本カテゴリーに参戦する自動車専門学校は2校  
彼らにとってJAF-F4はどんなシリーズなのか、そしてここで何を学ぶのか  
両校の参戦目的を探ってみるとJAF-F4ならではの特色が見えてくる

Text: 大串 信 (Makoto Ogushi) Photo: 佐々木純也 (Junya Sasaki) / 上尾雅英 (Masahide Kamio) / 米重有三 (Yuzo Yoneshige)

いわゆるワンメイックは、開発コスト低減を目的とした制度だが、ワンメイックだからといって必ずしも無条件にコストを下げられるというわけではない。同じ「F4」という名称が使われるジュニアフォーミュラながら、JAFの車両規定に基づくF4(以下JAF・F4)とFIA車両規定に基づくF4(FIA・F4)は、まったく異なる規格である。ワンメイックのFIA・F4に対して、JAF・F4は車両規定の範囲内でフレーム、サスペンション、カウルなどの車体およびエンジンについて自由な車両開発が許される。JAF地方選手権として開催されるJAF・F4レースには、ふたつの専門学校がカリキュラムの一環として参戦している。日本自動車大学校(NATS)と東京工科大学自動車学校である。自動車整備の専門学校が、F4地方選手権に参戦する理由はどこにあるのか。日本自動車大学校モータースポーツ科の金井亮忠科長は、こう語る。

「分解組み立てを身につけるだけではなく、もう一歩踏み込んだ部分で自動車に関わり、モノ作りを学ぶためにレース活動をしています。それにはJAF・F4が最適であると考えています」

開発コスト低減を目的に各種カテゴリーのワンメイックが進むなか、排気量2000CCクラスのエンジンを搭載する純レーシングカーとして、JAF・F4は独自開発が自由に行なえるカテゴリーは日本国内に存在しない。「ワンメイックだったら、ちよっとした破損があると指定部品を購入しなければならぬため、何百万円もかけない